

公益社団法人  
**日本軽種馬協会**  
**要覧**

# Contents

## 目次

	1	ご挨拶
		<b>協会の理念</b>
2		強い馬づくりに真摯に取り組む
		●健全な競馬の発展に寄与 ●馬の生産育成と社会のつながり
		●生産地の活性化と地域経済の安定化 ●JBBAの組織
		<b>協会の歩み</b>
4		生産者と共に歩んだ半世紀
		●国際舞台での活躍を目指す
		<b>協会の事業</b>
6		1. 軽種馬の改良
		●牧場と向き合う種馬場 ●種牡馬の万全な管理
7		2. 軽種馬改良情報の提供
		●データベースに膨大な情報を収集 ●インターネットによる情報提供
		●生産に役立つ情報源 ●データベースの多目的活用
8		3. 広報活動
9		4. 生産地の案内と啓発活動
		●競走馬のふるさと案内所 ●生産地情報のネットワーク
10		5. 人材養成と生産育成技術の向上
		●生産育成技術者の養成 ●生産育成技術者研修所の概要
		●後継者研修(後継者のスキルアップを支援) ●軽種馬生産技術総合研修センター
12		6. 生産地支援
		●国内流通の改善対策 ●日本産馬の海外販路拡大対策 ●防疫衛生対策
		●生産育成基盤の整備対策 ●経営体質の強化対策 ●競馬の振興を側面で支える
13		7. 国際協調
		●世界の生産者組織との連携
14		協会の概要

# Message

## ご挨拶

国民の健全なるレジャーとして親しまれている競馬。

競馬場を駆けるサラブレッドは、300年の歴史を重ねて受け継がれた血脉と、

それを育んできた人々の無限の努力の結晶です。

シンザン、ハイセイコー、オグリキャップ、ディープインパクト・・・。

サラブレッドは、時代時代の国民の皆様に熱い感動を届けてきました。

私たちサラブレッドの生産者は、

競馬をスポーツエンターテインメントとして輝かせる主役の競走馬を送り出すため、

2～3頭を飼養する小規模な牧場から、100頭を超える繁殖牝馬を飼養する大牧場までが、

半世紀を超えて競走馬生産に真摯に取り組み、

地域経済の基幹産業の一つとして地域社会の健全な発展に寄与してきました。

私ども公益社団法人日本軽種馬協会は、

米国や欧州など世界の生産者と肩を並べて資質の高い競走馬をつくり出し、

生産者の力を合わせて競馬の興隆、馬文化の継承、地域経済の安定化に貢献し、

日本の社会や国民の皆様とかかわり続けて参りたいと考えております。



会長理事

河野洋平

## 協会の理念

Vision



強い馬づくりに真摯に取り組む

## 健全な競馬の発展に寄与

国民の健全なレジャーとなっている競馬は、スポーツエンターテインメントとして、ファンに興味溢れる魅力ある質の高い競走を常に提供していくことが使命の一つとなっています。

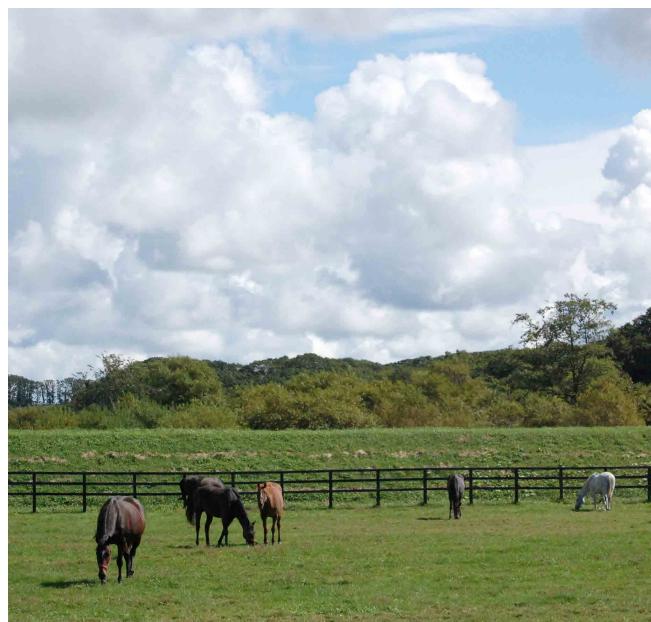
公益社団法人日本軽種馬協会(JBBA)は、その根幹となる優秀な競走馬の供給サイクルである「生産▶育成▶調教▶競走▶次世代生産」の一翼を担い、生産地では日本の気候・風土に合った生産育成技術と人材を用いて競走馬を安定的に供給することにより、競馬の健全な発展に寄与するとともに、サラブレッドの大いなる発展を支えています。

## 馬の生産育成と社会のつながり

軽種馬(サラブレッドに代表される馬の分類)生産地のルーツは、古くから名馬を産することで知られた土地や、軍馬や皇室に納められた馬の産地であり、馬と関わりが歴史的に深い地域です。

これらの地域は現在でも国内屈指の馬文化を有しており、協会が行う軽種馬生産育成に係る事業は、競馬を根底から支えると同時に、馬文化の保護・継承にも深くかかわっています。

また、馬の社会的利用は競馬のみにとどまらず、全国各地の乗馬クラブや馬術競技で活躍する馬の多くがこれらの地域で生産育成された軽種馬を利用しておらず、最近では馬を通じたアニマルセラピーにも用いられるなど、国民の健康増進にも大きな貢献をしています。



## 生産地の活性化と地域経済の安定化

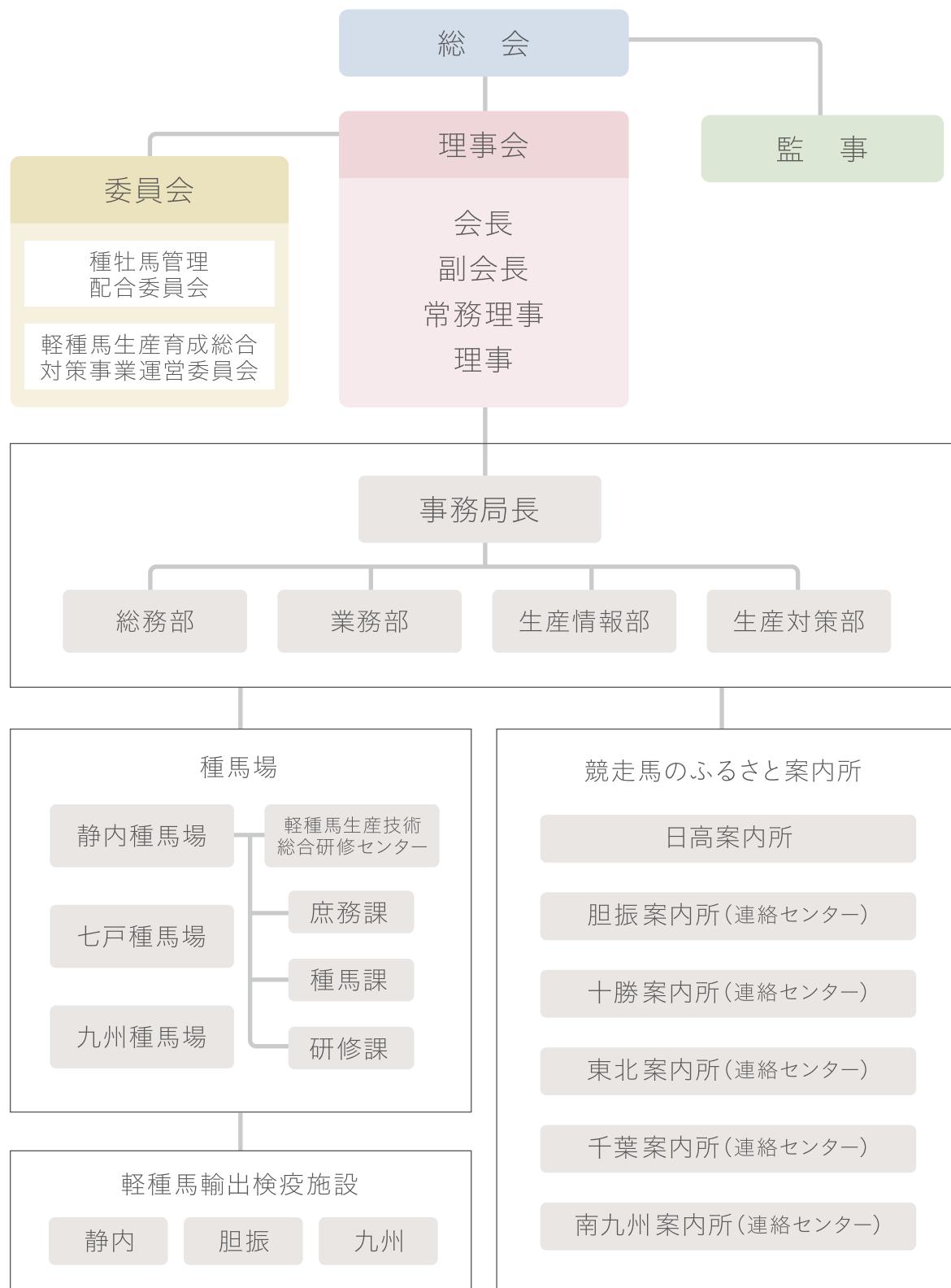
軽種馬の生産育成は、他産業の発展が比較的難しい地域で行われており、地域経済、地域社会を支える重要な基幹産業となっています。軽種馬生産育成は多額の資本投下を要するリスクの高い産業であるにもかかわらず、生産者の多くが小規模農家であり、軽種馬経営の不安定さが地域社会に及ぼす影響は大きなものがあります。

軽種馬が生産地から競馬場へ送り出されるまでの間に、協会が行う種々の生産育成対策事業は、軽種馬産業の安定的維持発展と生産地の活性化を促進し、地域経済の安定化に繋げるものとなっています。

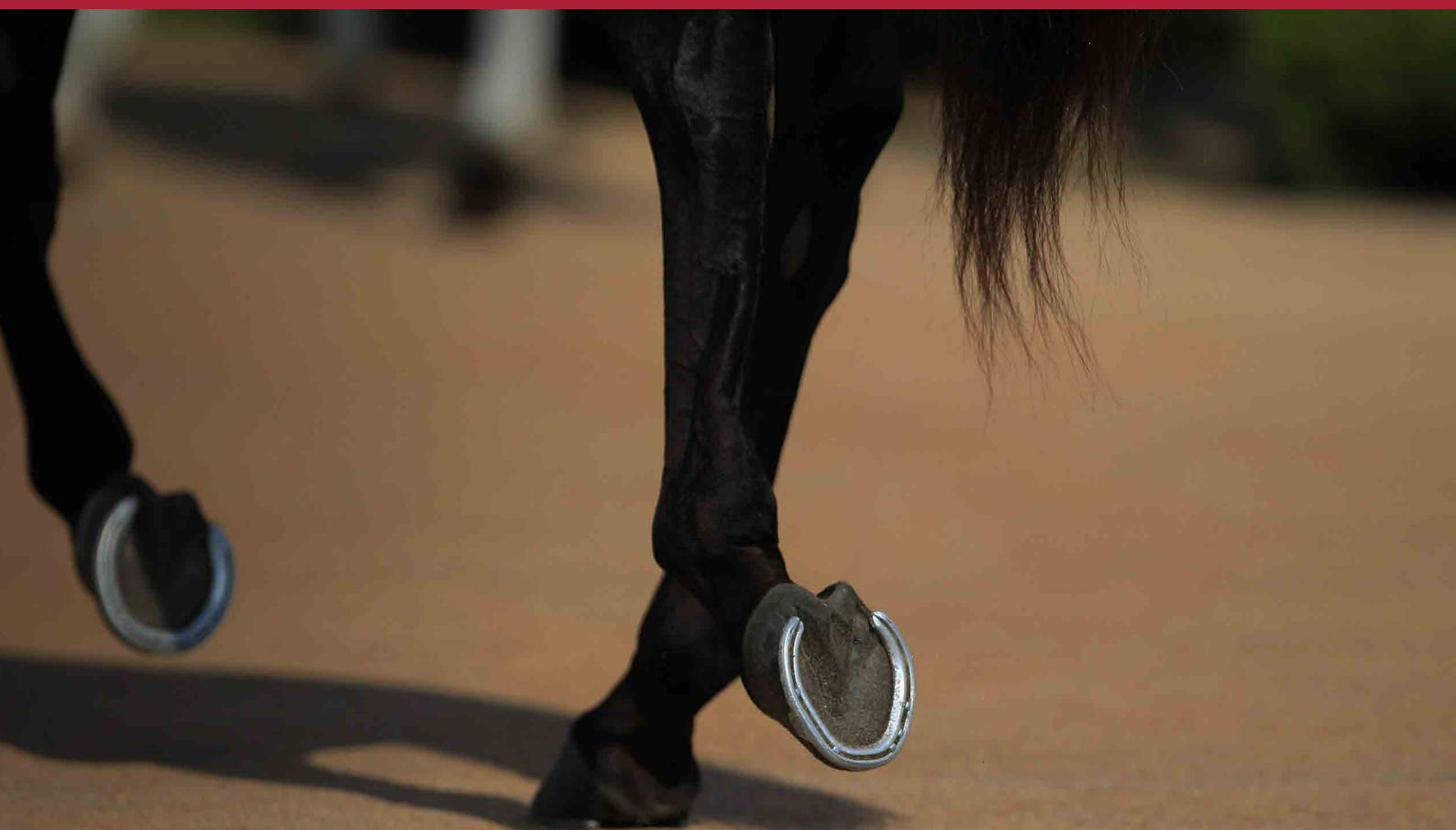
## JBBAの組織

協会は、軽種馬生産育成の安定的維持・発展を図る事業を行い、健全な競馬の発展と地域経済の安定化に寄与することを目的に、軽種馬やその生産育成施設を所有又は管理して軽種馬を生産する全国の個人、法人が会員となり組織する団体であり、全国の主要な生産地に3か所の種馬場を設置して事業を展開しています。

協会の意志決定は総会や理事会で行われ、その議題等は毎年各生産地で行われる懇談会での声を反映し、専門的な重要な事項には委員会を設置してきめ細かく対応できるよう配慮し、公正な事業実施に努めています。また、その結果については月刊誌等により逐次報告をしています。



協会の歩み



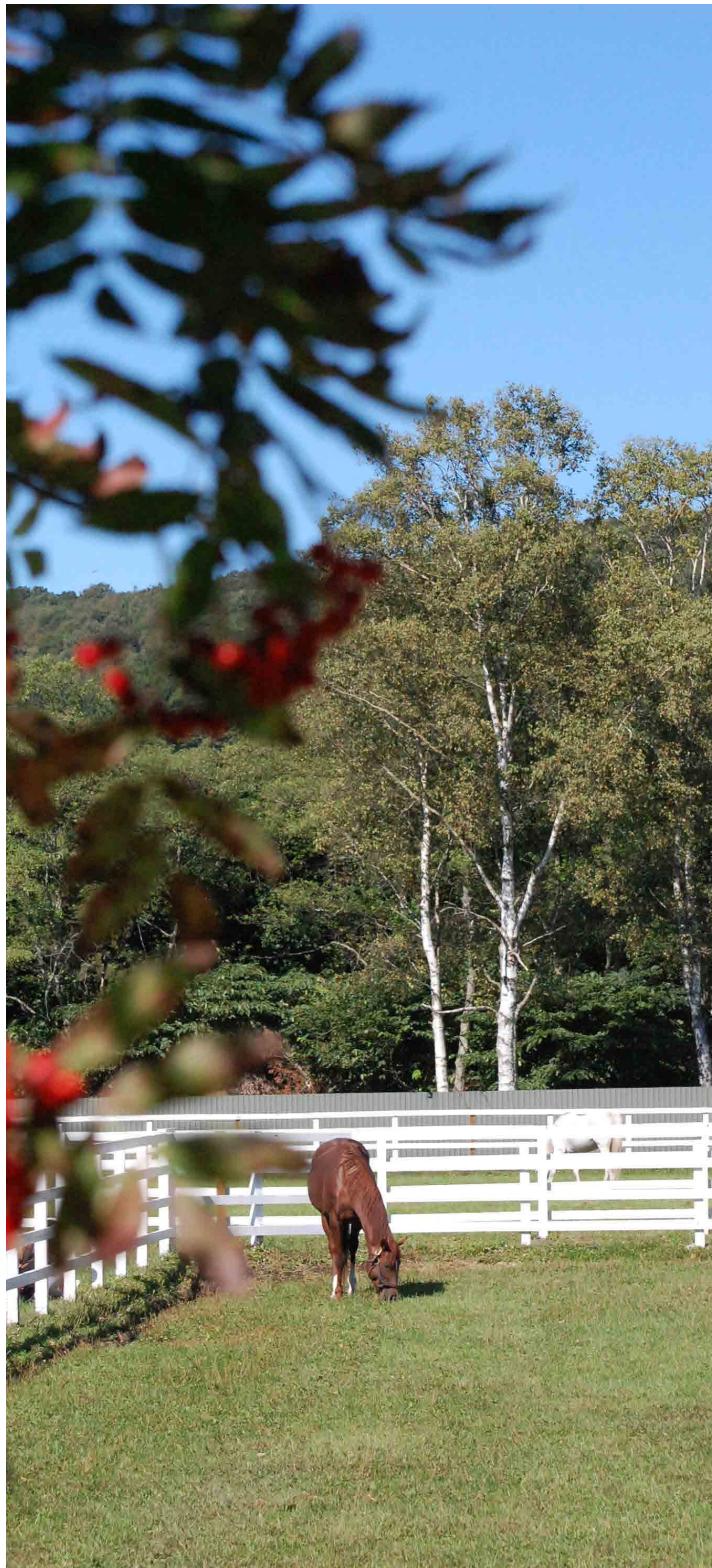
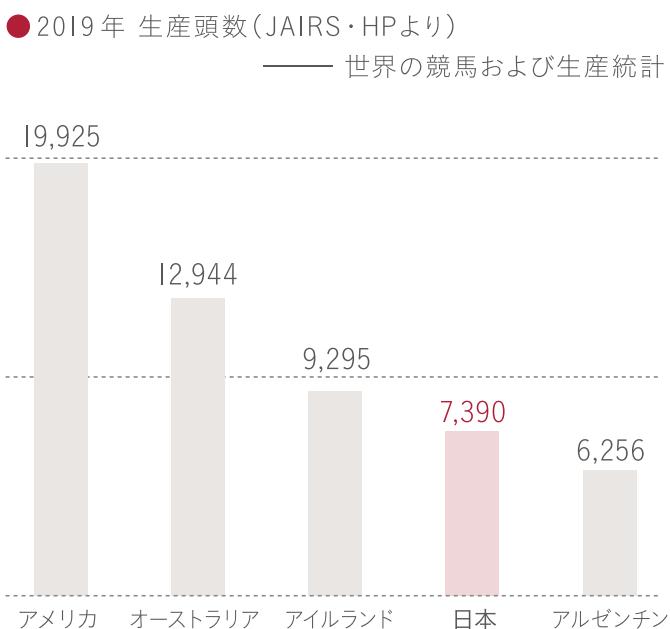
History

## 生産者と共に歩んだ半世紀

協会は、1955年9月に全国の軽種馬生産者が一致団結して「サラブレッド生産を民間の力で再び盛り上げ、競馬の発展に生産者の立場から貢献する」という理念のもとに発足。2012年1月には公益社団法人日本軽種馬協会となり、今日に至っています。

わが国で種付に供用されるサラブレッド種牡馬は、1946年の59頭から2022年には270頭（サラ）に増加しました。種牡馬のレベルも上がり、凱旋門賞馬、イギリスダービー馬、アメリカ年度代表馬など世界を代表するレースで活躍した種牡馬が続々と導入され、本協会所有種牡馬の産駒からもGIウイナーや、数々の重賞ウイナーが輩出されています。

また、サラブレッドの国内生産頭数は、1946年の203頭から1992年には10,309頭と飛躍的な伸びを見せ、地域経済を支える産業として根付き、2019年時点でアメリカ、オーストラリア、アイルランドに次いで世界第4位の実績を誇っています。



## 国際舞台での活躍を目指す

1971年の活馬の輸入自由化、1981年の中央競馬におけるジャパンカップ創設などをきっかけとして、以降、国際化計画により日本の競馬は外国産馬に門戸が開放されてきました。1993年の安田記念を皮切りに国際競走も年々増加し、2004年には全3歳クラシックレースに外国産馬の出走が可能となりました。

外国産馬への門戸開放と合わせて、競走能力も向上し、ジャパンカップでは、1984年にカツラギエースが優勝したのを皮切りに、2022年までの42回開催中に日本馬が28勝を収めて他国を圧倒しています。

日本産馬・日本競馬の世界的な評価も向上し、2007年に競馬最上位国グループであるパート1国に昇格しました。2010年には、中央競馬が全平地レースを国際レースとし、グレードレースの全てが国際レベルのG表記となり、名実ともに競馬の国際化が定着しました。

海外G1レースでは、1998年にシーキングザパールが日本調教馬による初の海外G1レース制覇をモーリス・ド・ゲスト賞で果たして以降、着実に優勝回数を重ねています。

特に近年の活躍はめざましく、毎年のようにドバイミーティングや香港国際競走で日本調教馬が勝利を挙げるようになっているほか、2019年にはメルドグラースとリスグラシューがオーストラリアで、ディアドラがイギリスで伝統のG1競走を制覇。そして2021年、ついにアメリカ最高峰のブリーダーズカップをラヴズオンリーユーとマルシュロレーヌが制しました。

これは「世界に通用する強い馬づくり」に傾けてきた努力の結実で、今や海外の馬主が来日し、日本のせり市場で世界に君臨する日本馬を購入するに至っています。



2021.11.6 BCディスタフ(G1)  
マルシュロレーヌ



2022.3.26 ドバイターフ(G1)  
パンサラッサ



2023.3.25 ドバイシマクラシック(G1)  
イクイノックス



2023.3.25 ドバイワールドカップ(G1)  
ウシュバテソーロ

● 海外のG1レースを制した日本調教馬  
(2016年～2024年5月)

2023年

サウジカップ(G1) パンサラッサ  
ドバイシーマ  
クラシック(G1) イクイノックス

ドバイワールドカップ(G1) ウシュバテソーロ

2022年

ドバイターフ(G1) パンサラッサ  
ドバイシーマ  
クラシック(G1) シャフリヤール

香港ヴァーズ(G1) ウインマリリン

2021年

クイーンエリザベス  
II世カップ(G1) ラヴズオンリーユー

ブリーダーズカップ  
フィリー&メアターフ(G1) ラヴズオンリーユー

ブリーダーズカップ  
ディスタフ(G1) マルシュロレーヌ

香港ヴァーズ(G1) グローリーヴェイズ

香港カップ(G1) ラヴズオンリーユー

2020年

香港スプリント(G1) ダノンスマッシュ

香港カップ(G1) ノームコア

2019年

ドバイターフ(G1) アーモンドアイ

クイーンエリザベス  
II世カップ(G1) ウインブライト

ナッソーステークス(G1) ディアドラ

コーヒールドカップ(G1) メルドグラース

コックスプレート(G1) リスグラシュー

香港ヴァーズ(G1) グローリーヴェイズ

香港マイル(G1) アドマイヤマーズ

香港カップ(G1) ウインブライト

2017年

ドバイターフ(G1) ヴィプロス

クイーンエリザベス  
II世カップ(G1) ネオリアリズム

2016年

ドバイターフ(G1) リアルスティール

チャンピオンズマイル(G1) モーリス

イスパーン賞(G1) エイシンヒカリ

香港ヴァーズ(G1) サトノクラウン

香港カップ(G1) モーリス

## 協会の事業

Work



## I. 軽種馬の改良

「国際競争力をもつ資質の高い馬の生産育成」には、優れた遺伝子の導入と極度の血統的偏りを防ぐことが欠かせません。日本産馬の資質向上を目指して、協会では優秀なサラブレッド種牡馬の導入による種馬事業を大きな柱に据えています。

## 牧場と向き合う種馬場

導入した種牡馬は、北海道日高地区、青森県、鹿児島県の3か所の協会種馬場に配置し、種付け料をリーズナブルに設定して牧場の経済的負担軽減を図りながら、毎年約500頭程度の繁殖牝馬に種付を行っています。

代表的な輸入種牡馬は、1970年代はピットカーン(IRE)、ロイヤルスキー(USA)、1980年代はグランディ(IRE)、クリスタルパレス(USA)、1990年代に入るとダンシングブレーヴ(USA)、フォーティナイナー(USA)といった世界的に評価の高い種牡馬を、2000年代からはバゴ(FR)、エンパイアメーカー(USA)、デクラレーションオブウォー(USA)、ノーブルミッション(GB)、カラヴァッジオ(USA)、シャープアステカ(USA)などの超一流馬を導入しています。



## 種牡馬の万全な管理

貴重な資源である種牡馬を最高の状態に保ち、スムーズな種付を行うため、種馬場には場長として獣医師を配置し、高度な馬医療知識・技術を基礎とし、心電計解析装置などの医療機器を駆使して種牡馬の飼養管理を行っています。健康面はもちろん、臨床・繁殖学からアプローチした検査や研究にも鋭意取り組み、種牡馬管理のノウハウ向上に努めています。



## 2. 軽種馬改良情報の提供

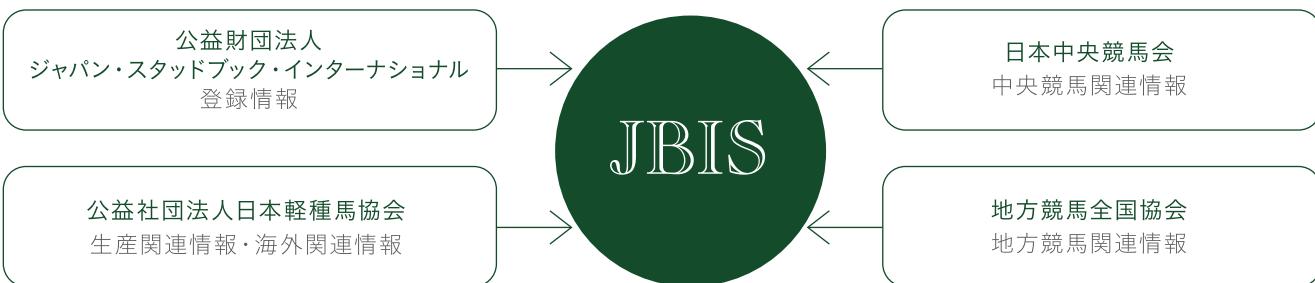
「世界に通用する強い馬づくり」を支援するデータベースシステムとして、1987年に軽種馬改良情報システム (Japan Bloodstock Information System:JBIS) を誕生させました。これにより生産地や各競馬主催者、関係団体などから収集・集積した軽種馬データを整備し、インターネットなどを通じて生産者のパソコンや携帯電話・スマートフォンに生産に役立つ情報として提供しています。

### データベースに膨大な情報を収集

JBISのコンテンツは、日本中央競馬会、地方競馬全国協会、公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルなどと緊密な連携をとり、現在では約132万頭の軽種馬(競走馬・種牡馬・繁殖牝馬・幼駒)の基本情報と約81万レース分の競走成績、市場取引馬の各種統計情報を完備しています。

また、独自に北米・欧州・オセアニアなどを対象とした主要競馬国のグレードレースの成績を収集するなど、どの馬からもリンクできる5代血統表を備えた充実した内容となっています。

中央競馬や地方競馬をはじめ、世界各国を見渡せば、競馬は毎日開催されています。一口に132万頭・81万レース分の情報といっても、その内容は常に追加され変化していることから、JBISは最新情報を提供するため、毎日データを更新しています。



### インターネットによる情報提供

JBISインターネットサービスであるJBIS-Searchを通じて国内・国外を問わず、広くすべての人が年間を通じて24時間いつでも必要な情報を引き出し、利用することができるようになっています。情報利用の垣根を限りなく低くすることにより、利用数は2023年の年間訪問者数約609万件、ページビュー数約4,837万件となっています。

国内最大級の競馬情報データベース  
**JBIS Search**

<https://www.jbis.or.jp>



## 生産に役立つ情報源

1972年生まれ以降の軽種馬の基礎データに、中央・地方競馬と海外のグレードレースの成績を付加し整備しています。

サイアー・ニックスランディング、統計情報、牧場関連情報、5代血統シミュレーションなど、軽種馬生産の配合決定に欠かせない情報源として活用できるよう工夫されています。

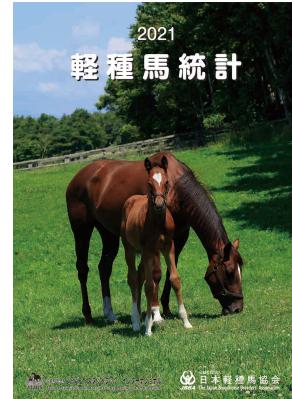
架空血統表 | 結果表示

The screenshot displays a detailed breeding chart for a stallion. At the top, it shows the stallion's name and birth year: 'ショーファスティックUSA' (Shoefastick USA) born in 2013. Below this, several sections show his bloodlines, including 'Zeta' and 'Manilo's Showoff USA'. A large section labeled 'Horses Trained (GB)' lists numerous racehorses with their names and colors. At the bottom, there's a summary table for the 'Family No.' 'F5-h' and a 'Cross' entry.

## データベースの多目的活用

JBISに蓄積された膨大な最新データを駆使し、毎年「軽種馬統計」、「全国馬名簿」など各種刊行物を発行しています。海外へ向けては英語により Stallion Profile として種牡馬の詳細な成績をインターネットで提供し、国際的に高い評価を受けています。

このほか、せり市場において配布される「せり名簿」のカタログスタイルも、JBISのデータをもとに作成されています。



軽種馬統計

せり名簿で利用される  
ブラックタイプ



## 3. 広報活動

協会の事業内容、事業活動・会議報告、生産地の状況、国内外のせり市場の状況、国内競馬に関する情報、種牡馬のプロフィール及びランキング等の豊富な情報を月刊誌の「JBBA NEWS」及び協会ホームページを通じて国内・海外へ向けて提供し、生産に関する情報を広く周知することに努めています。

また、海外に向けて協会ホームページ、日本産馬のプロモーションサイトを英語版にて提供しています。

日本産馬プロモーションサイト ▶  
[英語] <https://jp-breds.com/en/>



This screenshot shows the homepage of the Japanese Thoroughbred website in English. It includes the title 'JAPANESE THOROUGHBREDS Excellence and Value - Your Guide to Japanese Thoroughbreds and Sales -', a sales calendar, news topics, and a video player showing a horse race.

◀ 月刊誌「JBBA NEWS」

## 4. 生産地の案内と啓発活動

競馬は、多くのファンを魅了する観戦スポーツとしても国民の日常に浸透し、引退後のスターホースや名馬たちを生産地の牧場に多くの人々が訪ねて来ます。

協会は、牧場に足を運ぶ人々のために、生産地における引退馬の情報などの案内を行うとともに、宿泊施設、観光施設のガイドなど幅広い情報を提供しています。

### 競走馬のふるさと案内所

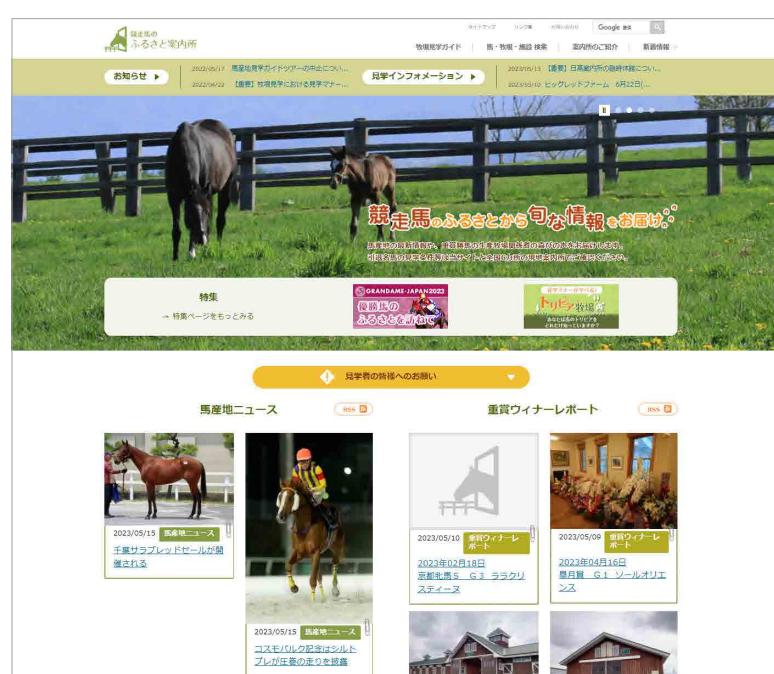
生産地を訪れるファンと牧場を橋渡しするインフォメーションの拠点として、1986年に静内町（現：新ひだか町）に「競走馬のふるさと日高案内所」を開設しています。また、全国5か所に連絡センターを設置し全国の生産地の情報を収集し共有化しています。



### 生産地情報のネットワーク

北海道の日高・胆振・十勝地方から九州・鹿児島まで全国にネットを持つ「競走馬のふるさと案内所」では、地元の繋養馬や牧場の最新情報を定期的に収集し共有化し、全国情報として生産地を訪れる競馬ファンや観光客はもちろん、報道関係や軽種馬関連団体などにも提供しています。

**競走馬の  
ふるさと案内所**  
<https://uma-furusato.com>



The screenshot shows the homepage of the official website for the Jockey Club Furusato Information Center. The top navigation bar includes links for '牧場案内ガイド' (Farm Guide), '馬・牧場・施設検索' (Horse, Farm, Facility Search), '施設地図のご紹介' (Introduction to Facility Maps), and '新着情報' (New Information). The main banner features a photo of two horses in a paddock with the text '競走馬のふるさとから旬な情報をお届け' (Delivering timely information from the birthplace of racehorses). Below the banner, there are sections for '馬産地ニュース' (Breeding Farm News) and '重賞ウイナーレポート' (Grand Prix Winner Report), each with several thumbnail images and dates.

## 5. 人材養成と生産育成技術の向上

軽種馬の生産育成は、馬の競走能力に価値を見出す特殊な分野であることから、その能力を育み、引き出す仕事には確固とした理論と技術が不可欠です。国際競争力をもつ資質の高い馬の生産育成を行うために求められているのは、世界的な視点から「強い馬づくり」を実現できる人材と科学的に裏打ちされた技術の普及です。

### 生産育成技術者の養成

協会では、騎乗技術を修得した牧場従事者を養成するために、1990年に静内種馬場内に育成技術者研修所を設置して「育成技術者養成研修」を開始しました。2002年には、この過程を基礎として生産関連の研修内容を充実させた「生産育成技術者養成研修」を新たにスタートさせ、世界水準の人材養成に力を注いでいます。



### 生産育成技術者研修所の概要

研修所は、北海道日高管内のはば中央、新ひだか町に65haの広大な面積を擁する静内種馬場内に設置されています。

延長600m・幅員10mの屋外馬場、80×30mの屋内馬場、延長3,000mの森林馬道、厩舎2棟25馬房、視聴覚機器を備えた講義室のほか、全寮制の宿泊施設などが研修生の知識・技術取得の舞台として用意されています。

このように整備された施設・設備のみならず、研修生の経済的負担の軽減にも配慮するなど、馬を学ぶ環境の充実に努めています。



## 後継者研修(後継者のスキルアップを支援)

研修所では、1992年から牧場の後継者、家族およびスタッスマネージャーの技能向上を目的に、基礎知識の講義から騎乗や馴致の技術などをコンパクトにまとめた2週間の「後継者研修」を毎年実施しています。



## 軽種馬生産技術総合研修センター

経験と勘に頼っていた「馬づくり」から科学的に裏打ちされた生産育成技術による「強い馬づくり」を進めることができます、国際競争に打ち勝つことにつながります。

協会では、生産技術向上に取り組む牧場を支援するため、2007年に軽種馬生産技術総合研修センターを設置し、同センターを核として、獣医師、装蹄師、栄養管理者を対象に、三者が共通の認識を持って総合的に技術指導を行うための研修等を行っています。

また、生産育成や経営管理などの技術普及を行っている技術者やコンサルタントを支援するため、軽種馬に関する技術情報の集積と提供を行うデータベース拠点施設としての役割を担っています。



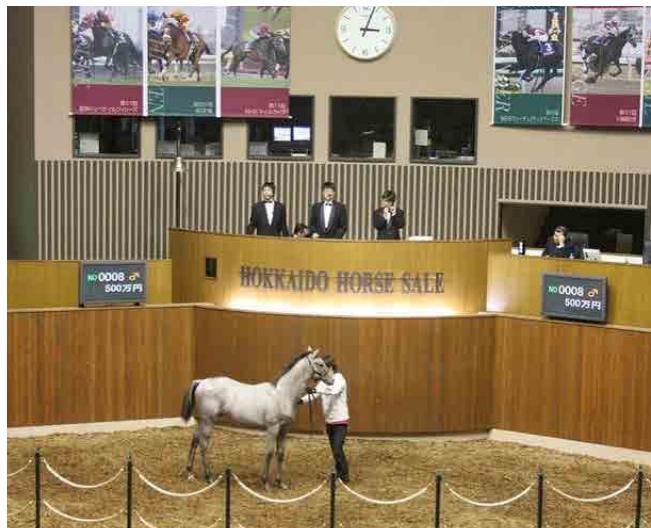
## 6. 生産地支援

### 国内流通の改善対策

せり市場の振興と軽種馬の円滑な流通を図るために全国各地のせり市場を支援し、上場促進、せり名簿の作成、広報費などへの助成を行っています。

また、通常の市場取引に代わる販売手段としてインターネットによる「せり市場オンラインシステム」を開発し運用をしています。

これらの市場対策により、せり市場の活性化、せり市場を核とした流通の促進等に大きな役割を果たしています。



### 日本産馬の海外販路拡大対策

生産馬の安定的販路の確保をめざし、海外の購買者に日本産馬の購買意欲を喚起するための活動を行っています。長い年月をかけて培われてきた優れた牝系と多数の世界的種牡馬を誇る国際レベルの血統、高度な育成技術、先進的な生産・育成施設、世界のビッグレースでの日本産馬の活躍など、わが国の生産馬の魅力を伝える情報を様々なメディアを通じて発信し、海外の購買者にせり市場への来場を勧誘しています。また、来日した購買者に対しては購買の支援を行うとともに、購買馬が円滑に輸出できるよう静内、胆振、九州の全国3か所に輸出検疫施設を整備し運営しています。



### 防疫衛生対策

育成馬に対する日本脳炎、馬インフルエンザ、ゲタウイルス感染症の予防や、繁殖牝馬に対する馬インフルエンザ、馬鼻肺炎の予防、伝染性子宮炎の再侵入の防止等の取り組みに対し助成を行う等、伝染病の発生と蔓延防止のため、多岐にわたる対策を講じ、我が国の防疫衛生対策の推進に大きな役割を果たしています。

### 生産育成基盤の整備対策

「国際競争力をもつ資質の高い馬の生産育成」にふさわしい環境づくりのために、軽種馬生産育成の基盤となる放牧地の整備などへ助成を行い、大きな成果をあげています。

## 経営体质の強化対策

協会は、牧場経営に対する有用な資料の提供、農協等が生産者を対象として実施する研修等に対する助成等により生産地の指導体制を支援するとともに、経営改善を図るため生産者が資金を借り受け生産施設の整備等を行う場合、一定の利子補給を行う生産育成強化対策などを行っています。



## 競馬の振興を側面で支える

世界で活躍する優秀な競走馬の生産と、その生産意欲を牧場経営に浸透させる施策として、協会が指定する重賞競走(中央・地方)の優勝馬関係者や、年間を通じて生産馬が活躍した生産牧場に会長賞を贈呈し表彰するなど、軽種馬生産育成に直結する競馬施行面でも積極的に支援を行っています。

## 7.国際協調

### 世界の生産者組織との連携

協会は日本の生産者団体として世界の生産者組織との交流に取り組んでいます。その活動の一環として、1986年から国際サラブレッド生産者連盟(ITBF)にオブザーバーとして参加し、2003年に正式なメンバーに昇格しました。その後2006年と2024年には、同連盟の総会を日本で主催し、世界の生産界のリーダーに日本の生産・育成・競馬を紹介すると共に交流の場を提供しました。ITBFへの参加を通して、協会は各国の生産者団体と意見交換を行い、相互理解と国際親善に努めています。



# Overview

## 協会の概要

設立 1955年9月

役員

会長理事	河野洋平(非常勤)
副会長理事	古川雅且(非常勤)
副会長理事	山内正孝(非常勤)
副会長・常務理事	上野儀治
理事	14名(非常勤)
監事	2名(非常勤)

施設

本部	〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4 JRA新橋分館3F TEL 03-5473-7091(代表) FAX 03-5473-7097
静内種馬場	〒056-0144 北海道日高郡新ひだか町静内田原517 TEL 0146-46-2321(代表) FAX 0146-46-2336
七戸種馬場	〒039-2501 青森県上北郡七戸町荒熊内153 TEL 0176-62-2619 FAX 0176-62-6918
九州種馬場	〒899-8313 鹿児島県曾於郡大崎町野方3995 TEL 099-478-3011 FAX 099-478-3013
軽種馬生産技術 総合研修センター	〒056-0144 北海道日高郡新ひだか町静内田原517 TEL 0146-46-8008 FAX 0146-46-8009
北海道市場	〒056-0002 北海道日高郡新ひだか町静内神森175-2 TEL 0146-42-2090
競走馬のふるさと 日高案内所	〒056-0002 北海道日高郡新ひだか町静内神森175-2 TEL 0146-43-2121 FAX 0146-43-2500

ホームページ

<https://jbba.jp>

